

## 2019年度 第12回 国家資格キャリアコンサルタント試験

### (JCDA) 実技試験(論述) 解答例(中里)

※今回のキーワードは、「改革」と「これまでのやり方」の2つで展開しています。それぞれ色々と言葉を変え逐語に盛り込まれているのが特徴です。感情の言葉は「わだかまり」です。

「改革」⇒「新しい企画の提案」「新しい企画の創造」

「これまでのやり方」⇒「業務を滞りなくこなして引き継ぐこと」

[問い1] 事例ⅠとⅡはキャリアコンサルタントの対応の違いにより展開が変わっている。事例ⅠとⅡの違いを下記の5つの語句を使用して解答欄に記述せよ。(背景 感情 自己探索 共感 枠組み)  
(15点)

事例Ⅰでは、CctはCLの感情に寄り添うことなく、今までの職場での経緯や背景にも目を向けずに、このまま今の職場でやっていくのか、それとも大学以外の職場でやっていくのかといった表面的な二者選択の枠組みによる解決策に焦点を当てているため、問題解決に結びついていない。一方、事例Ⅱでは、CctがCLの過去の体験に共感しCLの感情の言葉に焦点を当て、「その時どう思ったか」という応答をすることでCLの自己探索を促しているため、CLは自身の想いに気づきを得て内的感情を整理することで前向きになり、問題解決へ向かう展開となっている。(6行)

[問い2] 事例ⅠのCct6と事例ⅡのCct3、Cct7の下線部のキャリアコンサルタントの応答が、相応しいか、相応しくないかを考え、「相応しい」あるいは「相応しくない」のいずれかに○をつけ、その理由も解答欄に記述せよ。(15点)

事例Ⅰ Cct6 相応しくない

CLが今の職場でやっていけるか不安で相談にきたにも関わらずCctは「転職」を持ち出し、CL6で「転職先は考えづらい」の答えに「…意識改革が必要だ」とCctの主観による断定的な応答をしている。

事例Ⅱ Cct3 相応しい

主訴である「不安で相談に来た」に焦点を当て、そのきっかけとなった具体的出来事を尋ねることで、CLが気持ちを整理し、内省を促していく展開へ導く応答である。

事例Ⅱ Cct7 相応しい

CLの2つの内的葛藤を「対立」という言葉で置き換え提示することで、CLは「わだかまり」という感情について整理し気付くことができ、今後の働き方に対する不安を軽減していくことへとつなげる応答である。

[問い 3] 事例Ⅰ・Ⅱ 共通部分と事例Ⅱにおいて、キャリアコンサルタントとしてあなたの考える相談者の問題と思われる点を解答欄に記述せよ。(10点)

大きなイベント企画を託されたにもかかわらず、今までの実績やノウハウについて振り返ることなく、また、今後の方向性について上司や同僚などに相談することなく、「業務を滞りなくこなし引き継ぐ」か、「新しい企画を創造する」かどちらかに決定しなければならないと思いつみ不安になっていること。

[問い 4] 事例Ⅱのやり取りについて、あなたなら今後どのようなやり取りを面談で展開するか、具体的に解答欄に記述せよ。(10点)

学生の成長に関わりたいと13年間大学職員として前向きに仕事をしてきた姿勢を支持する。まずは、今まで外部に委託してきた説明会の内容についてキャリアセンターの職員で振り返りをし、「今までの業務の中で引き継ぐこと」と「新たに考えていくこと」について相談してみることを促す。話し合われた内容に基づく「新しい企画」と「引き継ぐ業務」を合わせた企画について上司に提案するよう勧める。良い部分は残し、無駄な部分は変えていくという相談者の内的な思いを伝えることで、自らまた仕事に前向きになれるよう支援していく。